

目の前に世界地図がある。多少色褪せた世界地図に当時の不思議な世界感が見え隠れする。この地図は1941年（昭和16年）2月に作られた物だ。2年ほど前に新橋のSL側の広場で古本屋の集まりがあり、35000円で購入した。

戦後賠償を求めたのはどの国か？

まずは驚愕の金額を見て頂きたい。

- イタリア（72年7月発効）
120万ドル
- スイス（72年7月発効）
1225万フラン
- スペイン（57年1月発効）
550万ドル
- スウェーデン（58年5月発効）
725万スウェーデン・クラウン
- デンマーク（55年9月発効）
30万ポンド
- オーストリア（66年11月発効）
1万6700ポンド

45年8月15日太平洋戦争で日本はポツダム宣言を受諾し、天皇が国民にお言葉を発した。当時の新聞ダイジェストを読むと、日本兵士が天皇の命令に背くことがないことを理解していた、8月30日にバターン号でマッカーサーが来ると、すぐさま横浜に向かったとある。その道中の画像も見たが、3万とも言われる日本

の官憲が警備にあたり、マッカーサーの車列に背を向けることになった。この行為は天皇の場合と同じで決して不作法ではないとされるが、ケツを相手に見せる行為が正しいのだから、不思議でならない。

逸話では、マッカーサーが到着した翌朝の卵料理一個を出すのに、ホテルのシェフがどれだけ血眼になって探したのか、その卵が今では物価の優等生になっていることに、時の流れの恐ろしさを感じる。

まずは食べ物だ。つまびらかに覚えていないが、TVドラマで吉田茂がマッカーサーに「このままだと何千万人の日本人が路頭に迷い、餓死者が多数出て暴動が起きる。だから食料をよこせ」と迫った場面があった。マッカーサーはアメリカから砂糖、小麦等をタツプリと運ぶが、結局は何千万の餓死からはかけ離れた莫大な量が運ばれた。マッカーサーは吉田茂に「なんだ日本人は餓死しないではないか、要求した穀物量はいい加減だったな」と言ったが、策士の吉田は「そんな正確な穀物量が分かっていたら、アメ

勝者のアメリカから学ぶことはまだ多くある

Vol.153



リカとは戦争はしなかった」と言ったとか言わなかったとか——。
父は曰「ころから「アメリカには感謝している」と言っていたが、その意味が解らなかつた。祖父は戦争が始まる前に国鉄職員から農業を始めたし、その時の年齢は50歳になっていた。私の父は終戦時に15歳だったので召集されることはなかった。
終戦の年の北海道は大冷

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョシディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

Illustration by Kazushige Akita

害で、札幌から長沼まで食料の買い出しに来た人たちの切羽詰まった態度、なかには着物を差し出しコメを求めた者もいたそうだ。父はそのような不条理な社会に満足が行く回答を導き出せなかつたそうだ。

当時の生産者がいくら努力しても、食料不足の事実が解消されないのは誰の目にも明らかなことだった。そこにマッカーサーが登場して、溢れんばかりの食糧を日本国民に供給することになる。

ただ昭和が終わるころまでは、食料を作っている農家であることは決して自慢できる職業ではなかつた。それどころか戦後、父は旧制中学の同窓会に参加することはなく、やっと50を過ぎたころに参加することになった。父本人から聞いた話では「同級生の多くは大企業経営者やその役員、警察幹部、弁護士、医者、衆議院議員になった者が多く、農家は自分ひとりだった」と。つまり自分は頭の勝負ではない農業だからと言う負い目があったと言っていた。

ところが、ある企業と同級生から「お前は良いよな、60過ぎてても働けるもんなん」との一言で火が付いてしまった。あゝ私はデキが悪くて、都会に出なくて良かったとシミジミ感じるこの頃である。

さて本題に戻ろう。昨年7月に日本のために戦った200万を超える霊が祭られる靖国神社と、そこから歩いて10分の無名戦死者が眠る千鳥ヶ淵戦没者墓苑に参拝してきた。

途中、内堀通り沿いに多少目立つビルがあった。イタリア文化会館、だとおお！思わず「ふざけんな、バカ野郎、消えろ、金返せ、火事場泥棒がつつ」と叫んでしまった。同行した者がさすがにビビって「どうしたんですか？」と聞いてきた。カクカクシカジカだと靖国神社の駐車場に戻る5分間で説明していたら、余計腹立たしくなってきた。

理由はこうだ。イタリアは45年7月15日に日本に宣戦布告して戦ったのか？日本はスペインと戦ったのか？日本はスイスと戦ったのか？

だから日本は戦って負けて賠償金を支払ったのか？それも戦後20年、30年経って支払っている。実際は中華事変の時の被害がどうなの、こうなのと言いだしたのだ。こんな完全に後出しジャンケンがまかり通ってしまったのが、第二次大戦の敗北の結果だ。

付き合う相手はデータを見て選ぶべし

冒頭に掲げた戦後賠償額のリストをもう一度よく見てみよう。イタリア

ア、スペイン、国王カール16世が失敗を口にしたスウェーデン、この1年間でよく出てくる国々ですね。なんでしたつけ？トヨタ・カリナ、マークII、違うな。サンデンストロブ、違うな。太陽の外輪にある……そうそうコロナだ。正しくは武漢ウイルスだった。江戸の敵を長崎で討つ！もしかして戦後賠償の敵はコロナなのだろうか。

もちろん専門家ではないが、最近の国立大学のデータを使って人口当たりの死者数を日本と比較してみると、スペイン、イタリア、は明らかに何倍どころではない数字だ。日本に戦後賠償を要求したスウェーデンと、要求しなかつたノルウェーとフィンランドでも、人口当たりの死者数が8倍と4倍の開きがある。

アメリカのミネソタやノースダコタに行くと北欧系と知り合いになる。なぜか私は全員ノルウェー系と親しくなる。スウェーデン系と親しくならぬい、という訳ではないが、自分ではその判断ができていく。多くの日本人はボルボのブランドは高いが、今では中国資本だ。実際はスカニアの方が頑丈なのだ。たまたま、イタリア、スペイン、スイス、スウェーデンを遠ざけている訳ではないが、やはり自分の子供たちには共有させてはいけない異質な文化をどこかで感じているのだらう。

う。そういえば戦後賠償を要求してきたギリシャ、アルゼンチンもすごい国だ。まあ、火事場泥棒のりの果て、ということになるだろうか。

同じ金髪・ブルーアイでも何か違うのか。日本政府は大人の事情があるので難しいだろうと思うが、個々の日本人は、吐き気がしてへどが出るような裏切者の国や国民を相手にしないで、しっかりとデータを見て付き合いましょうね。

ところで、この内容はどこから持ってきたのか？適当なネット記事ではない。韓国に720億円払ったとか、えーあんな国まで日本に戦後賠償要求したの？と驚きの国名が出てくる。この戦後賠償の数字は日本の外務省のホームページにシッカリと記載されているのだ。

勝者のアメリカから学ぶことはまだ多くある。ものすごいエネルギーと金をかけているが、父の「アメリカには感謝している」の言葉は自分のみならず次の世代に引き継がれるだろう。

さてと、来週(12月12日)は10時までの酒の提供を避け、接客を伴わず、65歳以上も参加しないスキノで忘年会だ。もちろん大好きなスペイン風バルがメインになる。何か文句あるか？